

# 東日本大震災における東北地区災害支援ネットワーク並びに会員会議所支援活動についての検証シート

※関係者からの聴取並びに各LOMアンケートによる

## I. 発災後の動き(各種対応、支援活動)

- ・支援物資の収集・調達・被災地への運搬、及び全国からの支援物資一時保管・管理、配送
- ※支援物資例:水及び飲料品、保存食及び食品全般、毛布、衣類、家庭紙類、衛生用品(マスク・オムツ・生理用品・家庭薬等)、暖房器具&燃料等、ランドセル及び学習用具、家具、家電、子ども向け書籍・DVD
- ・炊き出し(避難所、被災地イベントとの共同、小学校給食支援等)
- ・瓦礫撤去・泥出し等の労働ボランティア
- ・生活支援サービスの提供並びに同サービスにおける他団体との調整・協同事業(入浴、理髪)
- ・避難所などにおいて被災者との交流(子ども、老人及びボランティアと会話、遊戯等)
- ・ボラセン運営支援、ボランティア取次調整
- ・現地調査及び支援LOMへの情報提供
- ・被災地に対する応援メッセージの受領及び被災者への贈呈
- ・被災地での各種支援イベントの開催(PTSD対策、チャリティー、精神安定・意識高揚などを目的に多種多様)
- ・被災者(非難している方や原発事故により屋外活動を制限されている方)に対する招待方・参加型イベントの開催
- ・募金活動及び金銭寄付、また、被災者支援目的献血
- ・被災地物産販売及び販売機会の提供
- ・市民に対する復興支援意識喚起事業(タウンミーティング、パネル展、講演会等)
- ・初動時点及び通信網を含む社会インフラの停止状態において、TADSネット掲示板による情報共有(安否確認、支援ニーズや結果に関する情報)
- ・全国からの支援物資及び支援事業のマッチング調整(地区・ブロック)

## IV. TADSネットに求められるもの

- ※反省・課題の中からTADSネットに関わるものについて抽出
- ・個別的な対応は当該TADSネット役員が自ら考えて対応すべきであるが、TADSネット(組織的活動や掲示板の活用)が機能するために、定期的にシュミレーション・訓練を行い地区内に浸透を図ることをルーチンとする。
- ・TADSネット本部から現地情報の受発信をするための人員(食事、燃料、その他自己完結型)を即時派遣する。現地や現地周辺では、情報収集や発信に特化して対応することが必ずしもできなかったことから、現地ニーズの吸い上げや発信に特化した先遣部隊として派遣とする。
- ・TADSネット掲示板の利用方法について、これまでどおり規程・マニュアルに定められた関係者による使用はもとより、予め会員相互の情報受発信の機能を備えた改善を図る。
- ・TADSネット本部が立ち上がった場合、定期的な全体会議(ミーティング)をすることで、混乱状態を発生させないことが肝要である。(運用上の対応)
- ・東北全域に及ぶ大災害の場合は、地区外との連携を図る仕組みを構築する。⇒日本JCにより相互救援ネットワークの構築が進められている。

## II. 支援活動の効果・成果

- ・被災者の生命維持の一助となった
- ・被災者の精神的ケアの一助となった
- ・感謝されると同時に、逆に力や勇気をいただいた
- ・現地に入ったことで被災地ニーズを把握できた
- ・可能な限りニーズに応じた支援物資を届けることで避難生活の環境向上の一助となった
- ・広域でLOM間の支援連携体制が構築され、その後のLOM交流にも繋がった
- ・複数のLOMで連携した支援活動をすることで情報や物資、マンパワーなどスケールメリットを創出でき、且つ継続した支援体制をとることができた
- ・JCが迅速且つ精力的に活動した結果、支援物資の収集やボランティア募集においてマスコミの協力を得られる効果があった
- ・支援活動に多くの市民ボランティアの参加がありJCに対する理解が広がった
- ・メンバーの温かい心、志、絆などを互いに感じることで団結力を実感した
- ・全国的にJCとしての一体感を感じるとどうじに、遠方からくるメンバーの皆様へ感謝、感動を感じた
- ・TADSネット掲示板の情報により、一部のメンバー間の精神的支えとなった

## III. 支援活動の反省・課題

- ・支援物資の過多やニーズに合わないものの対処・処理が困難(賞味期限切れ食品や配布できない古着など、また、衣類の他にもランドセルなど新品のニーズが強く時間がたつにつれ必要なくなった)
- ・支援物資の仕分けや管理作業及び人員確保に難儀した
- ・最終的に廃棄物になる支援物資の処理などを想定されていなかった(資金面・管理面)
- ・上手く行政、他団体と連携できない地域があった
- ・時間の経過と共に変化するニーズを把握すると同時に迅速な対応が困難であった(支援物資や炊き出しの内容、季節要因やその変化への対応など)
- ・現地調査や撮影などの際に、不信感を与えない配慮が必要(服装や撮影のタイミングなど)
- ・募金していただいた金銭については、被災者・被災地に役立つ寄付先や事業への提供をしっかりと検討しなければならない
- ・継続して支援活動をするに極一部だがマンネリ化し真剣みを失うメンバーがいた
- ・被災地に行く場合は現地に迷惑をかけないように自己完結型で現地入りすべき
- ・電気の無いところへ連絡をする場合はムダを省くなどの配慮が必要
- ・支援事業・イベントなどで被災者を長距離移動させる場合は極力余裕のある日程を考慮しないと疲労感ばかりがのこる結果となる
- ・チャリティーイベントにおいては一般市民の参加促進が難しい
- ・被災地の衛生状態が悪い事(瓦礫などに何が入っているかわからない)を予測した装備が必須
- ・一定の時期(被災地で小売などの店舗が復旧した時など)を過ぎた場合、支援物資は被災地経済の阻害要因になる恐れがある
- ・現代的通信手段が機能しない場合の対応策もあったほうがいいのか
- ・TADSネット掲示板が本来の使用法と違っていた
- ・TADSネットに必要な情報がアップされなかった、また、時系列的に見難い
- ・想定外の大規模災害であったことから、TADSネット発動が遅れ、日本JCやブロック協議会との連携がちぐはぐになったり一部のメンバーに偏って負担がかかったり、支援物資や炊き出しのマッチングなど混乱する場合もあった
- ・想定外の大規模災害により日本JC災害対策本部の初動後にTADSネット本部が立ち上がったことで、マニュアルどおりの組織ではなく実働ベースの本部体制で取り組む形となった